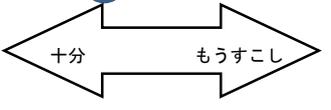
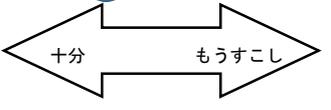
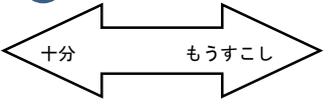


## 2020年度ジュニア・ライフセービング実施報告書

日時	①(西暦)2021年 1月 17日(日) 10:00 ~ 11:30 ②(西暦)2021年 2月 28日(日) 10:00 ~ 11:30	会場	静波海岸 他		
主催クラブ	<b>静波ライフセービングクラブ</b>				
対象/参加人数	<b>①小学1年 2名 ②小学1年~中学3年 6名</b>				
J L Aのねらい 達成度	水辺活動における楽しさの中から、自然や人との関わりあいを学び、相互理解から命の大切さを実感することによって、たくましく豊かな人間形成を目指す。				
	十分達成した <b>達成した</b> 達成していない				
クラブのねらい 達成度	教室を通して、水辺の事故、自然災害（特に地震）を自分事として捉え、いざという時のために、家族や友達と事前に話し合ったり、確認する機会となるようにしたい。また、「自分の身は自分で守る」という意識を根付かせたい。さらには、有事の際に「率先避難者」となるよう、「思考力」、「判断力」、「行動力」が養われることを目指す。				
	十分達成した <b>達成した</b> 達成していない				
使用機材・教具	ライフジャケット、東日本大震災に関する書籍津波フラッグ、ハザードマップ、ドッジビー				
タイムテーブル	<b>楽しさ</b>	<b>人との関わりあい</b>	<b>いのちの大切さ</b>	指導指針 参考ページ	クラブの 創意
10	【オリエンテーション】・本日の目的と活動内容の確認・参加者の確認				○
20		【こんな時、どうする?】・今、この場で地震が起きたらどうするかを考える ・津波について知る（津波フラッグ、ハザードマップ、ライフジャケットの正しい着用の仕方の確認含む）			
30	【ライフジャケットを自分で着用しよう】・ライフジャケットを着用ゲーム（助けてサインの活用も含む）				
40	～休憩～				
50	【ビーチレクリエーションと避難訓練】 ・静波海岸へ移動し、ドッジビーをしよう（活動の途中で「津波フラッグ」を提示する→自分でライフジャケットを着用し、津波避難タワーまで避難訓練）				
60					
70					
80	【津波避難タワージョギングラリー】 ・適宜、休憩をしながら、海岸に流れ込む「勝間田川」をさかのぼり、周辺の津波避難タワーをジョギングでまわり、津波避難タワーの違いを発見した				
90					
100					
110					
120	【活動をふりかえろう!】・活動を通して、学んだことをみんなで共有した				
160					

項目	楽しさ	人との関わりあい	命の大切さ
要素ごとの達成度	5 4 3 2 1 	5 4 3 2 1 	5 4 3 2 1 
活動内容ごとの振り返り	<p>今回は、コロナ禍ということもあり、ジュニアライフセービングクラブのメンバーのみで実施した。</p> <p>何度か、避難訓練をしているため、避難場所を把握しているが、なぜ、避難が必要なのか、再度、問いかけた。</p> <p>また、プログラムがマンネリ化しないよう、海岸周辺のジョギングラリーを行い、「津波避難タワーの設置場所や造りの違いを発見すること」を課題にしながら実施した。子供たちからは、「いつもと違う場所にも似たような津波避難タワーがあった。」、「同じような津波避難タワーでも、地区によって大きさやつくりの違いがあった。」という気づきがあった。</p>		
改善計画と今後の展望	<p>子供達が率先避難者として行動できるよう、何度も反復し覚えることと、楽しみながら行動することを使い分けながら、今後も自然災害（地震等）について学んでいきたい。</p> <p>今後は、対象者に合わせてプログラムの到達目標を決め、実施していきたい。</p>		

活動写真・集合写真



# 活動写真・集合写真



